

トピック

スプレー缶や充電式電池の分別について

4月からスプレー缶、カセットボンベのごみ出しのルールが変更になります。

【経緯】スプレー缶の中に残留ガスが残っている状態で不適切に穴あけを行うと爆発、発火等の恐れがあることから、スプレー缶の穴をあけずに出せるようにした。

【収集日】水曜日(月1回)スプレー缶の日ができません。スプレー缶用、緑のネット)

【出し方】図解のとおり



①中身を使い切る
穴あけを不要とする代わりに必ず中身を使い切ることを。

②穴はあけない
今回の目的であるため穴はあけないことを強調しています。(穴あけがされたものも回収します。)

③キャップをつける
スプレー缶の穴あけをしないので充填ガスが残っている可能性があるためキャップをつけることをお願いします。(キャップがない場合はキャップなしで排出してください。)

次に、充電式電池(モバイルバッテリーを含む)はリサイクルマークの付いたものは電池回収協力店で回収。

※リサイクルマークのないものは、膨らんだものについては資源循環課、環境事業センターへ問い合わせしてください。
(松林地区まちぢから協議会環境部会・池西道郎)



環境部会長 池西さん

家の防犯と対策

「あいさつは防犯」と言われるように、隣近所や地域の方と「あいさつ」をすることはとても大切なことです。さて、昨年から新聞やテレビの情報などでよく目にするようになった「闇バイト」。「闇バイト強盗」。犯罪グループが闇バイトで実行犯を募り実行する、という凶悪な強盗事件は全国で発生しており、特殊詐欺事件と同様、ニュースで取り上げられるケースが増えています。

「あいさつは防犯」と言われるように、隣近所や地域の方と「あいさつ」をすることはとても大切なことです。さて、昨年から新聞やテレビの情報などでよく目にするようになった「闇バイト」。「闇バイト強盗」。犯罪グループが闇バイトで実行犯を募り実行する、という凶悪な強盗事件は全国で発生しており、特殊詐欺事件と同様、ニュースで取り上げられるケースが増えています。



の生活スタイルや住人の年齢 ③セキュリティレベル(防犯カメラ・モニター付きインターフォンが設置されているか) ④この松林地区でも昨年夏頃から不審な訪問者が増えてきたとの声が多く寄せられていました。 ⑤外壁モニター募集、屋根工事・点検、下水・汚水層の位置確認、業者を装った下見に気を付けて狙われる場合、犯人はまず信頼を得るために配達員や訪問販売を装って玄関から侵入するというケースもあります。家人を信頼させることで、家に入り込む隙を作り、油断したところで強盗に及びます。 『家の防犯していますか?』 防犯対策を強化しましょう! ①窓や出入口の防犯性を高める ②建物周辺に死角を作らないようにする ③防犯カメラや防犯センサーなどの防犯グッズを設置する ④センサーライトを設置して、夜間でも顔が見られる環境を作る ⑤2日以上以上の長期の留守は近隣と声を掛け合う 防犯対策がされている家であることをアピールすることも防犯に役立ちます。 『どんな時も施錠しよう!』 ゴミ捨てなど、ちょっとした外出時にもドアや窓の施錠をしましょう。どんな時も隙を見せないことで、侵入を未然に防ぎやすくします。 インターホンで確認してから 最近の不審な訪問者は、スーツや普段着、宅配業者など、一般の人と変わらない格好をしていることも少なくありません。見た目にとらわれず、知らない人の来訪時にはインターホン越しに対応しましょう。ドアはすぐに開けず、用心することが大切です。

まちぢから松林タイムス

市民集会の報告

昨年12月21日、松林公民館で佐藤市長はじめ副市長や関連部課長を松林地区住民約60名が迎えるかたちで松林地区まちぢから協議会主催の市民集会が開催された。

この市民集会は26年(令和8年)10月オープン予定の松林地区コミュニティセンター(コミセン)の活用方法や運営上のアイデアについて住民と行政が協力してより良い施設づくりを目指すための重要な機会となった。

【コミセン建設実現までの経緯】コミセン建設に関する今までの経緯を振り返ると、松林地区では地域活動の拠点となるコミセンの建設を長年に渡り要望し続けてきた。その結果、19年(令和元年)に市から高田市営住宅跡地を建設予定地とする整備計画の回答を得た。

これを受け、松林地区まちぢから協議会はコミセンに対する住民の意見や希望を集約し整理するための「コミセン研究会」を発足し、16回にわたる研究会開催や他地区のコミセン視察を実施した。研究会の成果は21年2月に要望書として市に提出し、コミセンの整備計画に反映されるよう要望した。24年11月には市による建設設計が完了し、25年度から建設工事が開始される予定である。26年10月の開館に向けて、松林地区まちぢから協議会は指定管理者としてコミセンの運営を担うため、24年度に「運営準備室」を立ち上げ、準備を進めている。

市民集会では、住民からコミセンの活用方法や運営に関する様々な質問が出され、行政が回答する形で意見交換が行われた。 【市民集会での質問と行政の回答】 以下に、主な質問と回答をまとめる。

・地域包括支援センターやボランティアセンターとの連携：民生委員児童委員協議会は、会議室の確保に苦慮しており、コミセンの併設会議室の利用を希望している。 行政は、地域包括支援センターやボランティアセンターの専用スペースや専用会議室を用意するほか、利用状況を踏まえて併設会議室の利用も検討すると回答した。

・イベントの実施：住民が主体となってサロン事業などのイベントを実施し、コミセンを賑わいの場にしたいという意見が出た。行政は、まちぢから協議会が主体的に活動できるように支援していく方針を示した。 ①入りやすく、逃げ易い立地であるか ②その家を付けよう! ③下見?不審な訪問に気を付けよう! ④下見?不審な訪問に気を付けよう! ⑤下見?不審な訪問に気を付けよう!

・施設の運営のIT化：会議室を利用する際の予約システムの導入など、IT化を進めることで利便性を高めたいという意見が出た。行政は、公共施設予約サービスなどの活用を検討していくと回答した。 ⑥その他の設備：金融機関のATMや郵便ポストなどの設置が提案されたが、ATMは費用対効果、住民票等の自動交付機についてはコスト面から設置が難しい状況であることが説明された。郵便ポストについては、設置基準を確認するため、郵便局に相談中であることが報告された。 ⑦行政サポート：開館後の運営について、行政の継続的なサポートを求めるとの声が上がった。行政は、



市民集会の様子



コミセン完成イメージ

違いを【見開き頁に続く】



違いを【見開き頁に続く】

今回、市民集会は、住民と行政が直接意見交換を行うことで、コミセンに対する期待や課題を共有し、より良い施設づくりに向けて協力していくための第一歩となった。

今後、松林地区まちぢから協議会が中心となり、コミセン運営準備室等を通じて、住民の意見を反映した運営体制を構築することで、松林コミセンが地域住民の交流拠点として活発に機能することが期待される。

「地震」についてかんがえよう 防災特集

地震や水害などの自然災害に備えることを一般に「防災」と呼びます。地震（じしん）・火山（かざん）の噴火（ふんか）・津波（つなみ）などの自然災害（しぜんさいがい）や、火事（かじ）などに備えて、安全を確保（かくほ）することが大切です。今回は特に地震にスポットをあてて、日ごろの防災・減災意識を高めていただくためのポイントをまとめました。

【地震列島日本】
日本の国土面積は、地球上の陸地の約40分の1にすぎないのに、日本列島およびその周辺から吐き出される地震や火山噴火のエネルギーは地球全体の約10分の1に達しています。日本列島の周辺には、4枚のプレートがひしめき合っています。それらは互いに動きあつていて、これらプレートの境界あたりで地震活動や火山活動が活発なのです。地震とは、地下深いところで岩盤が破壊される現象で、破壊のショックが地中を波となつて伝わり、地表に達したときに地上にあるものを揺らす。この地下での岩石の破壊を「断層活動」といいます。

【地震は繰り返す】
ある領域を震源として地震が起き、余震を含めてエネルギーの放出が終わつても、そのあとまた岩盤にひずみエネルギーが徐々に溜まつていき、それが

「地震だーそのときどうする？」
地震は時間や場所問わずいきなり起こります。睡眠中、食事中、入浴中など日常生活の中であなたに日常の都合・事情にかかわらず、地震は起こります。また季節も天候も問わず起こります。地震が起こつたらどうするか、それらも大地震だったら、普段からときどき、「今、地震が起こつたら」とイメージして、いろいろな場面で身の安全を確保する方法を考えておきましょう。家具の倒れこみや天井からの落下物、外出先の建物や大勢の人が集まる場所での非常口確認、電車の非常ブレーキに備えて吊皮を握る癖をつけるなどイメージトレーニングをしておくとその場を冷静な行動をとることができ、思わぬケガなどを避けられる確率は大きくなります。

大地震に備える

【わが家の防災対策】
地震の多いわが国では大地震で人と建物に大きな被害が発生するたびに地震に強い建物や設計するための法律や制度「耐震基準」をつくつてきました。古い建物、耐震性に不安のある建物では専門家による耐震基準に基づ



互助とは、地域の人々が助け合う力です。避難をするときに近くに住む高齢者にも声をかけるなど、互助の力を発揮するためには、まず自分の身を自分で守る自助ができていなくてはなりません。

◎自助・互助
自助とは自分の命を自分で守る力です。具体的には、災害に備えて水と食料を備蓄しておく習慣、状況に応じて自ら避難する判断力などが、災害時の被害を減らすことにつながります。



◎地域の危険を知る
自治体ごとに作成されているハザードマップ（防災マップ）を見ると、その地域で起こりうる災害のリスクを具体的に知ることが出来ます。近くの川が氾濫した場合の浸水リスク、近くの断層を震源とする地震で想定される揺れなど、住んでいる地域にどのような危険があるかを知っておくことが大切です。

2011年の東日本大震災では、まず自らが率先避難者となれ」という防災教育を受けていた中学生が近隣の小学生や高齢者とともに避難をした事例、行政組織も被災して住民に支援物資が届かないなかで地域の人が協力して食料を集め、分け合つた事例なども報告されています。

2025年行事予定

茅ヶ崎市立小学校始業式 4月7日(月)
入学式 4月8日(火)
夏季休業 7月21日(月)～8月30日(土)
秋季休業 10月14日(火)～10月15日(水)
冬季休業 12月25日(木)～1月6日(火)

茅ヶ崎市立中学校始業式 4月7日(月)
入学式 4月7日(月)
夏季休業 7月21日(月)～8月29日(金)
秋季休業 10月14日(火)～10月15日(水)
冬季休業 12月25日(木)～1月6日(火)

大岡越前祭 4月19日(土)・20日(日)
浜降祭 毎年7月第3月曜日(祝・海の日)
開催だが今年未定

松林地区大運動会 10月12日(日)
場所: 赤羽根中学校

松林地区防災訓練 日時未定
場所: 松林中学校

松林地区まちぢから協議会
運営委員会 原則毎月第3金曜日
◎場所 松林公民館

ふくろう塾
月第1土曜・第3水曜
◎場所 松林公民館

かんがるうのぼっけ
毎月1回、原則火曜日10時～13時
◎場所 松林公民館・各自治会館

★地域情報や行事予定などは「松林地区まちぢから協議会のWEBサイト」をご覧ください

誰かの手を必要とする場合があります。普段から近隣のひとあひさつを交わし、いざというときに助け合える関係を築いておきましょう。自治会などが主催する避難訓練があったら参加しましょう。災害発生時に安否確認をする方法や、家の近くの避難場所などを知ることが出来るでしょう。

(執筆者・松林地区まちぢから協議会広報部会 川口 富士子(防災士) 参考文獻: 防災士教本・防災士会ハンドブック)

※「誰でもできるわが家の耐震診断」
2次元コード
ドイン
ターネット
で検索
できます。

地域の学校から

室田小学校より
地域に支えられて
村越さゆり 校長
室田小学校校長に、令和6年4月に着任した村越さゆりと申します。

日頃より地域の皆様には、本校の教育活動にご理解、また、ご支援とご協力いただいております。ことに、大変感謝申し上げます。子どもたちの安全を守るため、暑い夏でも寒い冬でも毎日朝早くから、通学路の色々な場所に立って登下校時の見守りをしていただいております。学校の外だけでなく、学校の教育活動の中でも、サツマイモや大豆の栽培そして収穫までの支援をしていただくことで、子どもたちは植物の「成長」を学ぶだけでなく、「育てる」活動が命を守るといふ学び

松林地区情報局

「まちぢから松林タイムス」をお読みの皆さまへは初のご挨拶です。令和4年度に着任し、間もなく三年を終えます。本校は、小和田小学校と一・小・一・中の間柄。小学校で育まれた力を引き継いで本校の教育活動は行われていきます。そこで、この地域の子ども一人ひとりにとって、小・中学校の9年間が一つのまとまった学びの時間となるよう、授業研究を通して小・中が連携し、その環境づくりに取り組んでいます。また、特別支援学級設置校として、近隣小・中学校学区のお子さんの学びの場ともなっています。

「あたたかな聴き方・やさしい話し方」を合言葉とした本校の日常のようすは、学校ホームページの「赤羽根の里だより」でお伝えしています。

赤羽根中学校 高橋校長

に繋げています。他にも子どもたちや保護者の方も楽しめる子どもまつりや学区の史跡を巡りながら茅ヶ崎里山公園まで歩くイベント等、様々な活動を通じて地域が一体となって子どもたちを育ててくださっていると日々感じております。今後も地域の皆様のご支援の下で子どもたちが豊かな心を育んでいける教育活動に取り組みでいきたいと考えております。これからも引き続きよろしくお願いたします。

赤羽根中学校より
高橋 校長
どこか坂の上のやぐらのようなたたずまい。昭和六十年四月に松林中学校から分かれ四十年。そんな赤羽根中学校の校長の高橋励(すすむ)と申します。

ご覧いただき、今後の取り組みにお力添えいただければ幸いです。